

YACかわら版 262

ESAカレンダー7月

ESAカレンダー7月

<説明の意識> *一部
 ウクライナ南部の農地は、
 フォルスカラー画像では、明
 るい赤です。
 地上の景観は、冬小麦、春大
 麦、トウモロコシを含む農地
 のパッチワークが目立ちます。
 灌漑用水路は細い黒い線で表
 示されます。右下には、クリ
 ミア半島の北の境界に沿って
 塩辛いラグーンのカラフルな
 ネットワークが並んでいます。
 夏の間、これらの暖かい湿地
 の水は不快な臭いを残します。

オレシキ砂丘位置情報
 46.604095, 33.040656



https://www.esa.int/Applications/Observing_the_Earth/Copernicus/Copernicus_Sentinels_2022_calendar

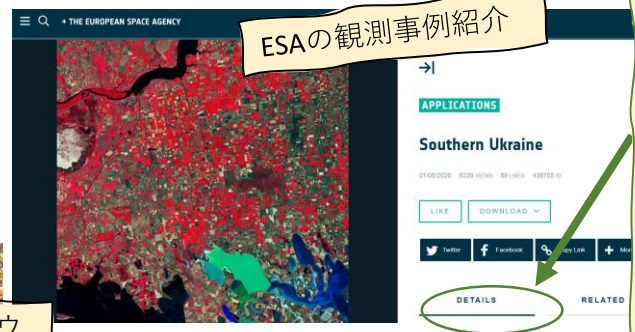
<説明の意識> *一部
 ウクライナの気候と耕作地のおかげで、農
 業はウクライナの経済に大きな役割を果たし
 ています。2019年6月26日に撮影されたこの
 画像では、農地のパッチワークが景観をつ
 くっています。ウクライナの主な穀物作物は、
 冬小麦、春の大麦、トウモロコシです。
 画像内の円形は、中央ピボットを中心に腕
 が回転し、作物にスプリンクラーで水をやる
 センターピボット灌漑システムの一例です。
 明るい赤は、画像の上部に見えるドニエ
 プル川のカホフカ貯水池の黒い水面と対照的
 です。運河は農地を貫く細い黒い線として見え、
 主に周辺の農地の給水や灌漑に使われていま
 す。

YACAかわら版261はオールアメリカン運河の、
 ESA6月カレンダー紹介でした。カレンダーの次
 の月はウクライナです。見事な農地のパッチ
 ワーク、左上のドニエプル川とオレシキ砂丘、
 左下の黒海と説明文等に隠れているカラフルな
 干潟、今年3月からニュースで見覚えがある地
 域の、フォルスカラー画像です。
 この画像は右下の記事でも読んだ記憶があり
 ました。YACのリーダーの方々が参加される研
 修会・セミナーで紹介したこともあります。
 見慣れた画像です。

2019年6月26日のトゥルーカラー画像を
 みましょ。この画面だけで東西110km南北70kmの農地が
 広がっています。ドニエプル川

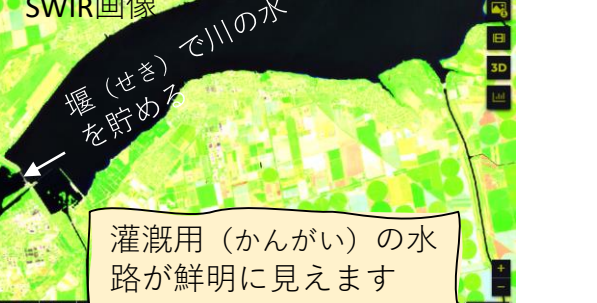


八郎潟を南ウ
 クライナを同
 一の縮尺にし
 ます



https://www.esa.int/ESA_Multimedia/Images/2020/05/Southern_Ukraine

True Color + IR highlights画像 2019-06-26



ドニエプル川の水が農地に網の目のように利
 用されています。用水路が整備されています。

灌漑用(かんがい)の水
 路が鮮明に見えます

ウクライナの農地の変化を探る

ウルスカラー

シーン分類

フォルスカラー

→ 植生

→ 植生していない

ドニエプル川近く

EOブラウザには「シーン分類」という機能があります。センチネル2データを「雲、植生、土壌/砂漠、水、雪...」に分類することができます。

地上を専門家が調査することほどの精度はないかもしれませんが、私どもが机上で簡単にできることに魅力があります。

フォルスカラー画像と比べると、円形農地の周辺もシーン分類では「植生」に分類されます

* 栽培園で雑草の生えているところも「植生」と。

農地の作物は年によって変化しています。同一場所で同一作物を栽培することには大きな課題があるからです。

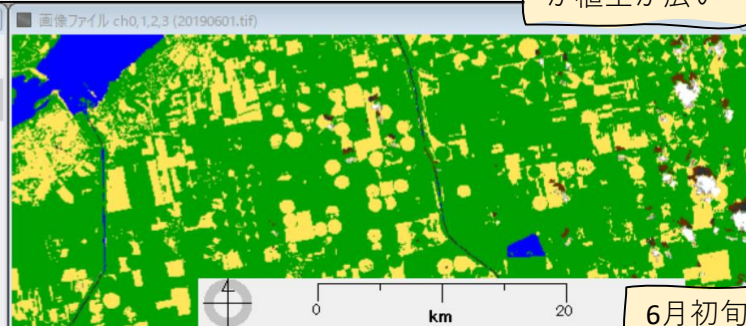
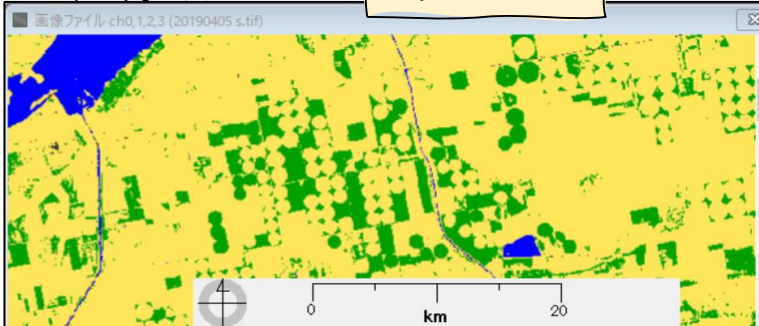
そのことに気を配りながら、2019年と2022年の同じ場所の土地の使われ方を調べてみましょう。

2019年 4月5日

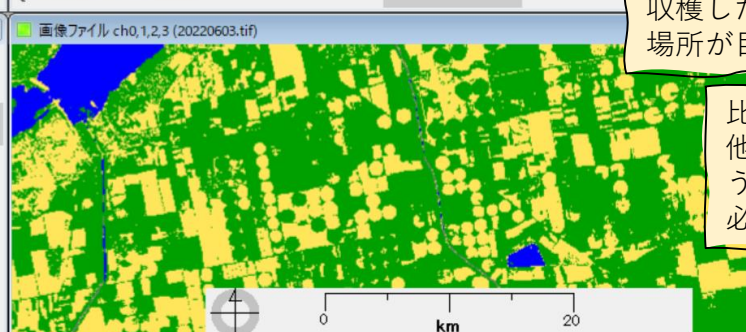
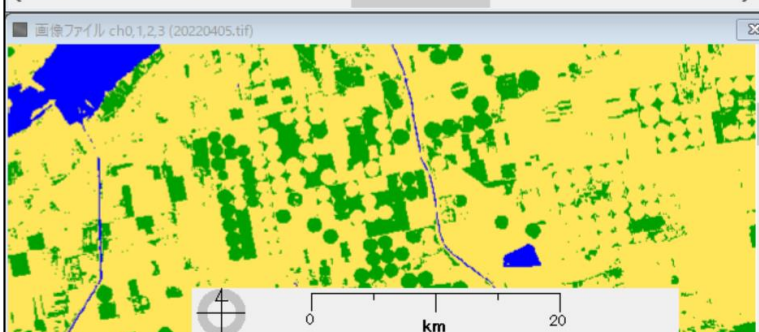
4月初旬は植生が少ない

2019年 6月1日

6月初旬は2019年の方が植生が広い



6月初旬は2022年は、収穫した跡と思える場所が目立つ



比較場所を増やし、他の地区でもそのような傾向か確かめる必要があるが...

2022年 4月6日

2022年 6月3日